

祝 辞

松 尾 浩 也

ご紹介を頂きました学士会理事長の松尾浩也です。全国7大学総合体育大会が歴史を重ね、ここに第50回記念大会が開かれるに至りましたことをお慶び致します。

「7大学」とは何か。それは、言うまでもなく北海道大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、大阪大学、九州大学の総称です。明治から大正、昭和にかけて、日本の国名は「大日本帝国」でありました。そして国立大学のうちの主要なものに「帝国大学」という名称が与えられていたのです。

昭和22年に日本では国民主権に基づく新しい憲法が施行され、「帝国」という言葉は消えました。大学の名称も、新時代にふさわしく改められました。しかし、先ほど申しました7つの大学が、日本の学術発展の中心に位置し、努力を重ねてきたという事実は消えることはありません。去年のノーベル賞受賞者が、北大出身の鈴木博士であり、また東大出の根岸博士であったのも、自ずからそのようなことを物語っていると申してよいでしょう。

私は、ただいま社団法人学士会を代表して、この記念大会に祝辞を述べているわけですが、学士会は、現在、7大学をつないでいる唯一の組織であります。7大学の学部又は大学院を卒業ないし修了し、あるいは教授・准教授を務めるなど関係の深かった方は、すべて入会の資格があります。実際、約6万人の方が会員であり、毎月、交流の媒体である『學士會会報』や、7大学情報誌『U7』を楽しみ、また各種の行事に参加しておられます。活動の拠点は、東京都千代田区にあります「学士会館」です。

学士会としましては、毎年開かれる七大戦にも大きな関心を寄せております。この季節に学士会館を訪ねてこられますと、館内各所に七大戦のポスターが貼ってあることに気付かれるでしょう。7年前からは、特別協賛団体として、いささかながら大会の運営を支援させていただいております。

大学の使命は、もちろん学術の研究・教育を主眼とするわけですが、スポーツもまた大学の生活を充実したものにする重要な要素であります。先月は、多年の懸案であった「スポーツ基本法」が成立し、6月24日に、法律78号として公布されました。その前文では、「スポーツは、世界共通の人類の文化である」と謳われております。それは、「心身ともに健康で文化的な生活を営む」上で、不可欠のものなのです。

今年の大会については、大震災の影響が心配されましたが、被災地の東北大学のチームも、元気に参加されているとお聞きし、嬉しく思っています。大会の順調な進行を祈って、私の祝辞と致します。